

「道路政策の質の向上に資する技術研究開発」（平成21年度採択）

中間評価結果

番号	研究課題名	研究代表者	評価
21-3	複合データによる道路サービス・パフォーマンス情報システムの研究開発	筑波大学大学院 教授 石田 東生	B

<研究の概要>

路側観測による交通データとプローブカー調査データを融合し、従来よりも広域かつ高精度で多様な道路パフォーマンス情報を安価に提供可能なシステムを開発する。さらに、それを活用した政策支援アプリケーションについて提案する。

<中間評価結果>

複数のデータ源を有機的に統合し、効率的な道路パフォーマンス情報システムを構築することは極めて重要であり、日本における導入上の課題を踏まえた道路利用者、道路管理者の双方が利用しやすいシステムの構築に向けて、指摘事項に留意しながら、現行のとおり研究を推進することが妥当である。

<今後の研究計画・方法への指摘事項>

1. 外国でのプローブシステムについてサーベイを実施するとともに、こうした手法の導入において日本が立ち遅れがちな根本的な要因についてできる限り整理していただきたい。
2. プローブデータのリアルタイム性・正確性とアプリケーションの関係を明確にしていきたい。また、外国で行われている携帯の制御信号を用いたプローブのシステムを視野に入れた検討を進めていただきたい。
3. ユーザーと指標の関係を明確にしつつ、研究を進めていただくとともに、できれば最終目的である政策支援アプリケーションの具体的なイメージを示していただきたい。
4. タクシープローブのデータ補完方法の検討に際しては、精度に加え、手法の明快さ、適用範囲の広さにも留意して研究を進めていただきたい。